

大学コンソーシアム長崎との意見交換会の結果概要

1. 日程

令和4年3月2日(水) 10時30分～12時00分 ※オンラインによる開催

2. 意見交換テーマ

県庁舎跡地の活用について

3. 結果

最初にコンソーシアムの皆さんから県庁舎跡地の活用策について発表してもらい、その後意見交換を実施。

(1) 発表概要

3つの視点（学習、観光、アート）から跡地の活用について提案

【アイディアの前提条件】

- 予算がかからない
- 長期で行えるイベント
- 準備に負担がかからない

① 学習系

“SAB (Study At Bus)” 廃車両（バス）を活用した学習スペースの提供

(内容)

- 県営バスが所有する廃車予定のバスを活用
- 車内のレイアウトイメージは別添資料のとおり。机は廃校となって不要になったものを再利用
- 車内は飲食 OK
- 学生の長期休暇の平日（10時～18時）※職員が管理できる時間内に設定
- 空調用のサブエンジンやドライブレコーダーをそのまま活用し、空調管理、防犯対策に利用
- 開放情報、利用状況がタイムリーにわかるHPを開設し、QRコードの読み取りで気軽に状況がわかる仕組みにする（来てみたけどいっぱいで利用できなかった、ということにならないように…。）

② 観光系

“観光マップ” 作り

(内容)

- 白い壁（仮囲い）にタッチ操作機能のある電光掲示板を設置し、ここに情報を投稿していく。
 - ① 参加型：参加する店舗を募集し、対象の店舗について市民しか知らない情報を共有。景色の投稿も OK。
 - ② 情報提供型：電光掲示マップからタッチ操作でおすすめのお店を検索できる。

③ アート系

(内容)

- 公園の子供たちを対象。サンドアートや白い壁を使ったお絵描きなど
- 折り鶴を活用したオブジェの製作

(2) 意見交換の概要（主な意見）

(“SAB” について)

- 市内には無料で開放している学習スペースが少なく、学生の不満が高い。市立図書館はもちろん、県庁も勉強スペースとして使用 OK になって以来、席が埋まっている状態。市内の中高生向けの学習スペースをもっと確保したい、という思いから発案した。
- 廃バスを利用するメリットとして、広い空間で、取得費用も安く（県営バスは低価と想定）、設置するための運搬もスムーズ（自走運搬を想定）などがある。
- 青空教室についても検討はしたが、机の撤去に手間がかかり、騒音もあるかもしれない。壁と屋根はあったほうがいいのかの意見があった。静かな木陰などはいかかもしれない。
- ホームページについては、デザインは固定だけど情報を入力すれば形になるものと、自分でデザインから作る方法などがある。広報については SNS を活用したほうが良いと思っている。開放状況の確認用として HP を用意しておくイメージ。

(観光マップについて)

- 新鮮な情報を取り入れ、いままで知られていなかったお店の情報を提供することができ、現在コロナの影響を受けている飲食店の助けにもつながる。地元も盛り上がると思う。

- 電光掲示マップとは違うが、佐賀の御船山楽園のようにプロジェクションマッピングを活用して注目を集めるなどのアイデアも出た。

(アート系について)

- 折り鶴の活用については、長崎に寄贈された折り鶴がしばらくすると廃棄されるというので、それを活用してオブジェ作りを考えた。
- ストリートピアノは管理など大変かもしれないが置いたらにぎやかになると思う。ピアノ以外の楽器をおいても面白そう。
- 大砲ゲームについては、昔の人がどうやって大砲を打っていたか、VRなどで体験できるものを用意してはどうかと考え、提案した。

(その他)

- 県庁舎跡地をプレゼン大会の会場として使うことや、長崎の名所を回るときのコースとしても使うことなども検討できるかもしれない。
- 今日のように双方向でやりとりができると、お互いが抱える課題を共有して、理解を深めることができる大変良い機会だった。